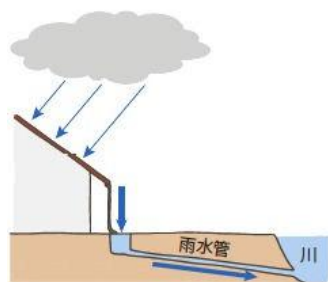


# 雨庭について

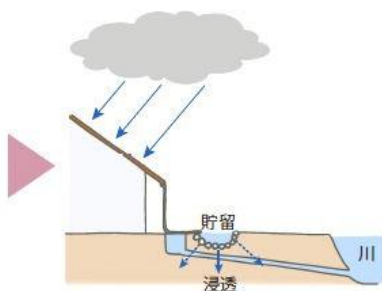
雨庭とは、屋根やアスファルトなどに降った雨水を、排水路や河川に直接放流させず、一時的に貯留したり、浸透させるための庭や空間のことを指します。

(イメージ)

従来の場合



雨庭を設置した場合



(実際の雨庭)



## 【熊本地域での雨庭】

熊本地域では、水がよく浸透するため「ざる田」と呼ばれる水田をはじめ、畑や草地などに降った雨水が地下に浸透し、地下水源を形成してきました。しかし、都市化が進むと、屋根やアスファルトの上に降った雨水は、雨樋や排水管を通じて下水道や河川へ、すみやかに流され、地中に浸透しにくくなっています。その結果、豪雨の際には下水道や河川に大量の雨水が集中し、排水しきれない場合は地上にあふれてしまいます。

それに対し、雨庭は有効な対策となります。雨庭は、屋根などに降った雨水を一時的に窪地に溜めたり、土壌に浸透させることで地下水をかん養する仕組みです。降った雨が地中に浸透し、地下水や湧水となり、健全な水循環の形成に寄与します。また、雨水が河川や下水道に流出する量やスピードを抑えることができるため、洪水の軽減につながります。雨庭を流域のさまざまな場所に設置することで、水循環の健全化が期待できます。

さらに、雨庭は在来植物を植栽することで、生きものの生息場所となり、都市化が進んでも自然生態系の劣化を抑えて生物多様性の保全に役立ちます。また、ヒートアイランド現象の緩和など、多面的な機能を発揮します。緑豊かな雨庭が増え、地域でともに管理することで、世代や立場を超えた交流の機会が生まれ、潤いのあるまちづくりにつながります。

図および写真は「くまもと雨庭パートナーシップ」HP より引用